



文化財通信くまもと



第24号
平成19年3月
熊本県
教育委員会

新指定文化財について

平成18年度は、新たに県指定重要文化財4件、国登録文化財7件が追加される予定です。
(平成19年2月28日現在)

県指定重要文化財(建造物) 楠浦の眼鏡橋



所在地 天草市楠浦町中田原

指定日 平成18年5月29日

明治11(1878)年、楠浦村最後の庄屋であつた宗像堅國によって方原川に架けられた石橋です。長さ27.3m、高さ6.5mの単一アーチ橋で、石壁が薄くアーチの曲線に沿って全体が大きく弧を描いている点が特徴です。

堅國の業績を記した「瀧河碑」には、宮地往還の交通の要衝にあたり、方原川の氾濫でたびたび橋を流されて難渋する住民のために、永久に流されない石橋を架けようと決意した事が記されています。地元大工の和田茂七が足場と枠組みを築き、下浦の松次、伊田の紋次の2人の石工の指導の下で、地元天草下島の「下浦石」が積まれました。

工事は村を挙げて急ピッチで行われ、わずか80日で完成したといわれています。

地域住民が地元の石材を用い、総力を挙げて架けたこの橋は、天草では現存最古の石造アーチ橋として当時の姿をよく留め、田園の中で美しい景観を形成しています。

県指定重要文化財(建造物) 山口の施無畏橋 附架橋碑



所在地 天草市本渡町字溝端
(架橋碑:天草市本渡町本渡)

指定日 平成18年5月29日

明治15(1882)年、無畏庵と染岳觀音院の参拝者のために町山口川に架けられた石橋です。長さ22.7m、高さ4.2mの単一アーチ橋で、県内の他の石橋に比べて橋脚の間隔が大きく極端に扁平な橋です。また、中央が輪石のみで構成されており、壁石の数が薄い点が特徴です。

かつて、参拝する時には飛び石を渡っていましたが、増水時は通れないため、明治4(1871)年に石橋が架けられました。しかし、積み方で悪く崩れ落ちたため再建されたのが今の橋です。

架橋碑には、戸長の森孝徳、世話人の鶴田剛八

他9名が名を連ね、下浦村の大塚光治、錦戸才松、三山権平の3人の石工の名が記されています。6つの寺院と信者98人が寄付をしており、村を挙げての大事業であったことと信仰心の篤さがうかがい知れます。

天草の現存する石造アーチ橋では楠浦の眼鏡橋の次に古く、また架橋碑から橋が架けられた事情が分かるという点でも貴重な文化遺産です。

とみしげしゃしんじょ
登録有形文化財 富重写真所



ンスの方式で、洋学に造詣が深い彦馬の指導によるものといわれています。

日本では現存最古のスラント式写真館であり、当時の写真原版、器材とセットで現存している写真館は珍しく、日本写真史における黎明期の資料として価値の高いものです。

所在地 熊本市新町2-8-5

登録日 平成18年3月27日

構 造 木造2階建、瓦葺、建築面積138m²

日本最初の写真師上野彦馬に師事し、明治3（1870）年に熊本で初めて写真業を開いた富重利平の写真館で、明治10年代後半に建てられました。2階が撮影室・暗室になりますが、北側が採光用のスラント（ガラス張り屋根）で南側がR状の壁という独特な構造を拥っています。スラントを通った光をいたん床に反射させR状の壁面でとらえて被写体を照らすことで、光の量を調節し立体感を作り出すという効果があります。これはフラン

きゅうあまくさきょういくかいかなほんかんせいもんへい
登録有形文化財 旧天草教育会館本館、正門及び塀（2棟）

所在地 天草市船之尾町336-3

登録日 平成18年3月27日

構 造 (本館)木造2階建、瓦葺、建築面積271m²

(正門)鉄筋コンクリート造、高さ1.9m、間口4.4m

(塀) 鉄筋コンクリート造、総延長40m



離島天草の教育振興の拠点として活躍した洋風建築で、地元の千原萬五郎の設計・施工のもと昭和10（1935）年に竣工しました。800人以上の教師らが給料の一部を出し合って建築費用をやり繰りしたという逸話があり、研修所や図書館、子供達の作品展示場と様々な用途で利用されました。水平な庇を持つ玄関ポーチや欄干窓の付いた窓、東側外壁の丸窓、2階大広間の天井飾りや黒板周りの漆喰仕上げ、備え付けの講壇等々、外観・内装ともに昭和初期の洋風建築の意匠を見ることができます。

近代の離島天草にいかに優れた洋風建築の技術が浸透していたかを示す貴重な建築遺産です。

うえだけじゅうたくしゅやはなれざしきおもてげんかんせいもんうらもんへい
登録有形文化財 上田家住宅主屋、離座敷、表玄関、正門、裏門及び塀（5棟）



所在地 天草市天草町高浜南723

登録日 平成18年3月27日

構 造 (主屋) 木造平屋建、瓦葺、建築面積467m²

(離座敷) 木造平屋建、瓦葺、建築面積105m²

(表玄関) 木造平屋建、瓦葺、建築面積44m²

(正門) 木造、瓦葺、高さ3.4m、間口2.5m

(裏門) 木造、瓦葺、高さ3.4m、間口2.1m

(塀) 木造、瓦葺、総延長62m

文化12（1815）年、国学者としても著名な上田宣珍によって建てられた旧高浜村の庄屋屋敷です。上田家は江戸中期から陶石を探掘し、6代武盛の時に陶芸を始め高浜焼を創始しました。子の宣珍の時に最盛期を迎え現在に至っています。漆喰塗と下見板張を外壁とする主屋は20以上の部屋からなり、南には明治時代の増築になる表玄関、離座敷が続きます。特に与謝野鉄幹ら「五足の靴」も立ち寄った離座敷は、繊細で端正なつくりの床・棚・書院を持ち、ガラス戸を多用した開放的な縁側に近代の造形感覚が伺えます。また、敷地の前面中央に正門、南東隅に裏門を配し、離座敷前の庭園と池を長い木堀で囲んでいます。

江戸末期の天草の庄屋屋敷の姿を今に伝える建築であり、庄屋の家にふさわしい規模の大きさ、質を尽くした意匠から当時の繁栄ぶりを伺わせます。

そばいせきしゅつどしそくぶつしつしりょう 県指定重要文化財（考古資料）曾畠遺跡出土植物質資料

出土地 宇土市花園町

指定日 平成19年3月19日

曾畠遺跡出土植物質資料は、宇土市花園町にある縄文時代前期（約6,500年前）を中心とする曾畠遺跡から出土したものであります。

これらの出土品で最も特徴的なことは、縄文時代の植物質の資料が、廻らずに残っていたことです。これは、遺物が地中に埋もれている間、地下水に完全につかっていて、遺物が空気と全く触れることがなかつたためです。そのため、縄文時代のヒヨウタンや木の葉等が、青々とした状態で発見されました。

縄文時代に利用されたことが分かるヒヨウタンは、国内でも例が少なく、とても貴重なものです。その他、植物のツルでつくられた編み物は、ドングリを貯蔵していた穴の中から20点がみつかりました。ヒヨウタンと同様、植物質の資料がそのまままでみつかることは、非常に珍しいことです。今回、これらの点が評価され、県の重要文化財に指定されることとなりました。



じしゅうようけいてつえつぼ 県指定重要文化財（考古資料）磁州窯系鉄絵壺



出土地 阿蘇郡南阿蘇村

指定日 平成19年3月19日

磁州窯系鉄絵壺は、阿蘇郡南阿蘇村大字^{いわづ}間に所在する祇園遺跡を発掘調査した際に出土しました。祇園遺跡は、鎌倉時代から室町時代（12世紀後半から14世紀後半）にかけての遺跡ですが、阿蘇地方を治めていた「大宮司」と呼ばれる職に任命されていた阿蘇氏の、南阿蘇地方での館と考えられている重要な遺跡です。

出土した壺は、中国の河北地方にある磁州窯と呼ばれる窯でつくられたものです。祇園遺跡が営まれていた時代に輸入され、建物を立てる前に、地鎮のために治めたと考えられます。大きさは、

口径12.7cm、器高30.5cm、最大径32.5cmの立派な陶器で、壺の素地に白土をといたものをかけ、その上に透明の釉薬をかけています。壺の表面には、鉄分を含む黒色の顔料で鳥や草の文様を描いており、美術品としても非常に価値が高いものです。今回、県の重要文化財に指定されることになりました。

きくちがわいぼう 登録記念物（植物）菊池川堤防のハゼ並木

所在地 玉名市繁根木字島田地先から小浜地先まで

登録日 平成19年2月6日

玉名市を流れる一級河川の菊池川には、その堤防沿いの約3.7kmの区間に、237本のハゼの古木があります。ハゼは、樹高が14mを超えるものや、幹周囲が約3.5mになるものもあります。これらのハゼは、江戸時代に熊本藩が獎勵したことにより植え付けが始まったと考えられているのですが、堤防が崩れないようにする目的と、ハゼの実から収益をあける両方の目的があったと考えられています。

ハゼ並木は、秋になると真っ赤に紅葉して、人々の目を潤しています。毎年、紅葉の時期には、玉名市役所と地元玉名校区まちづくり委員会が協力して、現地で「玉名はぜ祭り」を開催し、地域の人たちの集いの場を提供しています。

国の文化審議会では、このハゼ並木を、国の登録記念物（植物）に登録するように答申しました。植物として登録されるのは、国内で最初のものになります。



じ あい えん
登録有形文化財 慈愛園モード・パウラス記念資料館



所在地 熊本市神水1-633-1

登録日 平成19年3月告示予定

構造 木造2階建、スレート葺、建築面積87m²

社会福祉施設慈愛園の創設者であるアメリカ人のモード・パウラス女史が、昭和2（1927）年に建てた事務所兼宣教師住宅です。西面は将棋の駒を重ねた様な面を持ち、南面は大きく屋根窓を突き出す独特な姿をしています。17、18世紀の欧米で流行したコロニアル様式といわれるもので、1階西側に玄関、南側にリビング、東側にダイニングを配し、2階に書斎、寝室を設けるコンパクトで実用的な造りになっています。現在は、1階を慈愛園の事務局として、2階をパウラス女史を偲ぶ展示室として活用・公開されています。

大正時代～昭和初期の本格的な洋風住宅の特徴を持つと共に、近代熊本の福祉の発展を物語る貴重な建築遺産です。

う き し こく さい こうりゅうむら まほ やかた どう でん とう こう げい かん じゅうよう しりょうてん じ しつ
登録有形文化財 宇城市国際交流村法の館、同伝統工芸館及び重要資料展示室（3棟）

所在地 宇城市三角町三角浦1031

登録日 平成19年3月告示予定

構造 (法の館)木造平屋建、瓦葺、建築面積288m²
(伝統工芸館)木造平屋建、瓦葺、建築面積75m²

(重要資料展示室)煉瓦造2階建、瓦葺、建築面積45m²

明治23年に設置された三角区の簡易裁判所を、大正9（1920）年に三角西港を一望できる高台に移転新築したのがこの建物です。正面中央にむくり屋根（丸味を帯びた屋根）の車寄せを突き出した和風建築で、東北隅にある法廷、調停室、検査官室、調室等の8つの部屋からなっています。北側の弁護士・出頭者の控室（現在は伝統工芸館）、西側の記録倉庫も現存しています。平成4年に三角駅の裏に新庁舎が建てられるまで活躍し、以後は子供達の学習の場として公開・活用されています。

和風色の強い地方裁判所建築の代表例であり、各施設の構成等、大正初期の裁判事情を偲ぶことのできる建物として貴重なもので。



きゅうしゅうかい ぎ がく えん ほん かん どう せい もん いし がき
登録有形文化財 九州海技学院本館、同正門及び石垣（2棟）



所在地 宇城市三角町三角浦1193

登録日 平成19年3月告示予定

構造 (本館)木造平屋建、瓦葺、建築面積260m²
(正門)石造、間口5.0m、高さ2.7m
(石垣)石造、延長32m、高さ1.2m

三角西港は綿密な都市計画に基づいて築かれた初の近代的港湾です。その中枢を担う宇土郡役所の庁舎として建てられたのがこの建物です。熊本県吏員大久保慶二郎らが設計を担当、明治35（1902）年に竣工しました。モルタル塗に目地を切った石造風の外観を持ち、正面中央には前に柱3本、後に柱2本を吹きにしたポーチを突き出し、屋根には大小の尖塔付きドーマー窓を載せるなど、特徴ある洋風意匠が目を引きます。庁舎南側の正門と石垣には築港用と同じ安山岩を用いており、正門両側の石垣を渦曲に廻らすなど、港の眺めに配慮した開放的な作りです。大正15年の閉鎖後は町役場庁舎や、軍の施設、中学校校舎と転身を重ね、現在は宇城市立九州海技学院本館として海技士や無線士等を育てています。

明治時代における日本人大工の洋風建築技術の習得を考える上で貴重な建築遺産です。

平成18年度発掘調査について

平成18年度に県教育委員会が発掘調査した遺跡は数多くありますが、その中から主な遺跡をいくつか紹介します。みなさんの近所にある遺跡は載っているでしょうか?

にほんぎいせきぐん かずがちく 二本木遺跡群（春日地区）

二本木遺跡群（春日地区）は、熊本市春日にある遺跡で、九州新幹線建設工事に伴い発掘調査を行いました。発掘調査を始めた前には、熊本駅裏の蒸気機関車を始め列車を運行するための施設群（機関車庫、転車台、給水塔、引込み線等）が残されていました場所にあたります。

発掘調査の結果、8世紀後半～9世紀中頃（奈良・平安時代）、12世紀～14世紀頃（鎌倉・室町時代）そして近代、熊本駅が作られてからの遺構群を多数確認することができました。

主な遺構としては、奈良・平安時代の竪穴住居跡や掘立柱建物跡、鎌倉・室町時代の溝、戸井、墓等が見つかっています。主な遺物としては、奈良・平安時代の土師器や須恵器、二彩の扱（物をのせる台）、鎌倉・室町時代の須恵器、綠釉陶器、土師器が出土しています。見つかった遺構の状況から、奈良・平安時代には竪穴住居跡を中心とする集落跡から、大規模な掘立柱建物跡群へと移り変わっていたことが分かりました。また、鎌倉・室町時代の墓の中には、畿内地方で作られたもの（須恵器、綠釉陶器）と地元で作られたもの（土師器）と一緒に埋納されていました。



駅裏での作業風景

にほんぎいせきぐん たさきちく 二本木遺跡群（田崎地区）



幾重にも重なる竪穴住居跡

竪穴住居跡は何度も建て直されており非常に密集していました。青銅の鏡や勾玉の土製品が出土しています。住居の多さから長い期間にわたる集落と考えられます。坪井川を挟んだ南にも同じ時期の集落が見つかっており、大集落となる可能性もあります。

二本木遺跡群（田崎地区）は熊本市田崎にあります。このあたりは熊本県（肥後国）の中心地となっていました。今の県庁のような役割を持つ国府、国衙があつたところです。当調査地は田崎1丁目にあり、JR鹿児島本線に沿って西側で、百貨店跡から田崎陸橋までのあいだ（北調査区）と田崎陸橋からおよそ200mの地点から坪井川までのあいだ（南調査区）です。

北調査区で見つかった遺構は竪穴住居跡や柱を立てるために掘った柱穴列、土地を区画する溝、戸井の可能性がある土坑などです。北半分に集中し、平安時代ころのものです。南調査区では弥生時代後期（およそ1800年前）の竪穴住居跡が300軒以上、掘立柱建物跡が数棟、土器が置かれていたり埋納された土坑が見つかりました。

青銅の鏡や勾玉の土製品が出土しています。

北島遺跡群



I区で見つかった遺構の数々

ただし、今回の調査で発見された遺構や遺物が「北島城」に関するものであるかどうかは、今後の分析・検討が必要となってきます。

熊本市池田にある北島遺跡群は、京町台地から井芹川に向かって張り出した台地上に位置します。この地には「北島城」（城主や時代は不明）があったと言われています。今回、九州新幹線建設工事に伴い発掘調査を行いましたが、台地上の調査Ⅰ区と裾部の調査Ⅱ・Ⅲ区以外は、近世以降に行われた段々畑の開墾、JR線、道路、住宅等の建設により掘削を受け、遺構及び遺物等は検出されませんでした。

平成18年6月から10月に調査したⅠ区では、小型甕棺墓、竪穴住居跡、土坑、掘立柱建物跡、柱穴、横列、溝状遺構などを検出しました。これらの遺構から、弥生土器、土師器、須恵器、磁器などさまざまな遺物が出土しており、弥生時代中期から古代、中世にかけて遺跡が存在していたと考えられます。

宮浦横手遺跡

宮浦横手遺跡は、芦北町宮浦にあり、佐敷川の北側に位置しています。県道芦北坂本線の道路整備事業に伴って、発掘調査が行なわれています。

この遺跡に隣接して、宮浦地下式板石積石室古墳群（芦北町指定史跡）があります。地面を掘り窪めた穴に板状の石をドーム状に積み重ねて埋葬施設を作るこれらの墓は、南九州独特のもので、弥生時代から古墳時代にかけてのものだと考えられています。

今回の調査区からは、弥生時代から古墳時代の土器や古墳時代の竪穴住居跡が12棟見つかっています。隣接する宮浦地下式板石積石室古墳群の年代と近いため、墓に埋葬された人々の集落と考えられます。住居跡は円形で、埋土の中からは土器や石器、鉄器がたくさん出土しています。これらの遺物の状況から、使わなくなつた住居に投げ入れて、祭りを行なつた様子がうかがえます。この当時の人々は使っていた家や物を捨てるときには、感謝の気持ちを表したかもしれません。

また、この遺跡からは、多くの鉄器以外にも鉄器生産に伴う鉄くずや銅冶炉の部品である羽口が見つかっています。これは、ここに住んでいた人々が鉄生産という高度な技術を持っていたことを表しています。

これらの発見は、熊本のみならず南九州の古代文化を知る貴重な資料となるでしょう。



多くの遺物が見つかった竪穴住居跡

なか はら よこ あな ぐん 中原横穴群

中原横穴群（人吉市中神町）は、古墳時代後期から終末期（今から約1,500～1,300年前）にかけて崖に掘られた横穴墓です。今回、崖の崩落防止対策事業に伴い平成18年8月～10月までの約3ヶ月間発掘調査を実施しました。

その結果、横穴墓が32基確認され、大村横穴群（人吉市城本町）の26基を上回り、人吉・球磨地域において最大の横穴群であることが判明しましたが、そのほとんどが崖の崩落や後世の掘削により当時の形状を留めていませんでした。

そのうち3基の横穴墓には、拳大ほどの河原石が敷き詰められ、古墳時代の須恵器の破片、鉄製の鎧や刀子（小刀）、耳環などが出土しました。

また、太平洋戦争時（今から約60年前）の防空壕が13基確認され、そのうちの6基は、横穴墓を利用して掘り込まれた防空壕であることが判明しました。



横穴墓の内部の様子（河原石が敷かれている）

きく ち し やかたあと 菊池氏館跡

菊池市隈府一帯は、中世、肥後守護であった菊池氏の本拠地であり、中世肥後国の政治・経済・文化的の中心地であります。現在も、整然と区画された道路などに昔の町割りの面影が残っています。今回、菊池高校の校舎の建て替えが行われるということで、平成17年11月から発掘調査を行いました。

今回の調査で、幅3m以上、深さ2m以上の堀に囲まれた複数の掘立柱建物跡が見つかりました。堀は、約1町（約100m）四方に取り囲んでいた可能性があり、見つかった建物跡が、当時、大きな館だったことを物語っています。その他に、土師器が大量に埋められた土坑（穴）なども見つかり、近くで酒宴や儀式的なことを行った可能性があります。



土坑から見つかった土師器

また、中国製の青磁や染付などの陶器も多数見つかり、菊池川などの水運を生かした海外との貿易と菊池氏の文化的繁栄がうかがえます。出土した遺物から、今回見つかった掘立柱建物跡の時期は、15世紀末から16世紀にかけてのものと思われ、菊池氏が活躍した時期とも重なります。

なお、関係者のご理解とご協力により、この遺跡は一部保存されることになりました。発掘調査終了後、保存される部分には山砂などを入れて埋め戻し、さらに堀の土層を薬品を使って剥ぎ取って保存しました。（詳しくは11ページにて）

平成18年度県指定及び国登録文化財一覧(平成19年2月28日現在)

県 指 定

指定の種類	名 称	所在地	概 要	建築時期、設立時期	指定年月日	備考
重要文化財 (建造物)	山口の施無限橋附架橋碑 梅浦の眼鏡橋	天草市	単一アーチ橋、長さ22.7m、高さ4.2m 単一アーチ橋、長さ27.3m、高さ6.5m	明治15年 明治11年	平成18年5月29日 平成18年5月29日	新指定 新指定
重要文化財 (考古資料)	曾煙道跡出土植物遺体 祇園道跡磁州窯鉄繪塗	宇土市 南阿蘇村	朝代、ヒヨウタン 磁州窯	縄文 中世	平成19年3月19日 平成19年3月19日	新指定 新指定

国 登 録

指定の種類	名 称	所在地	概 要	建築時期、設立時期	登録年月日	備考
登録有形文化財	富重写真所	熊本市	木造2階建、瓦葺、建築面積138m ²	明治前期	平成18年3月27日	
	旧天草教育会館本館・正門及び碑	天草市	木造2階建、瓦葺、 建築面積271m ² (本館)	昭和10年	平成18年3月27日	
	上田家住宅主屋・離座敷・表玄関・正門・裏門及び碑	天草市	木造平屋建、瓦葺、 建築面積467m ² (主屋)	文化12年	平成18年3月27日	
	慈愛園モードハウス記念資料館	熊本市	木造2階建、スレート葺、建築面積87m ²	昭和2年	平成19年3月(予定)	
	宇城市国際交流村の館・伝統工芸館及び重要資料展示室	宇城市	木造平屋建、瓦葺、 建築面積288m ² (法の館)	大正9年	平成19年3月(予定)	
	九州海技学院本館・正門及び石垣	宇城市	木造平屋建、瓦葺、建築面積260m ² (本館)	明治35年	平成19年3月(予定)	
登録記念物(植物)	菊池川のハゼ並木	玉名市	堤防沿い3.7kmに237本	江戸時代	平成19年2月6日	

平成18年度発掘調査一覧

No	遺跡名	所在地	主な時代	主な遺構	主な遺物
1	二本木遺跡群(春日)	熊本市春日	古代・中世	掘立柱建物・竪穴住居	二彩鏡・纺錘車
2	二本木遺跡群(田崎)	熊本市田崎	弥生・古墳	掘立柱建物・竪穴住居	青銅鏡・鉄器・土製勾玉
3	北島遺跡群	熊本市池田	弥生・古代・中世	竪穴住居・土坑・壙棺	土師器・磁器
4	新馬借遺跡	熊本市横手	中世・近世	土坑墓・柱穴	泥面子・土師器・磁器
5	川尻外城町遺跡	熊本市川尻	近世	溝・土坑	土師器・磁器・瓦
6	二本木遺跡群(合同庁舎)	熊本市春日	古代～近代	掘立柱建物・竪穴住居・溝・井戸	土師器・須恵器・綠釉・青磁・白磁・瓦・楕
7	南請遺跡	宇城市不知火町	古墳～古代	竪穴住居・土坑	土師器・須恵器
8	新屋敷遺跡	熊本市新屋敷	古代	竪穴住居	土師器・須恵器・磁器
9	両迫間日渡遺跡	玉名市両迫間	弥生・古墳	鞋印	弥生土器・土師器
10	寺田山口遺跡	玉名市寺田	绳文	土坑	绳文土器・石器
11	瀬田池ノ原遺跡	大津町瀬田	旧石器～弥生	集石・石器ブロック・竪穴住居	旧石器・绳文土器・弥生土器
12	花岡木崎遺跡	芦北町花岡	古墳～中世	掘立柱建物	青磁
13	花岡古町遺跡	芦北町花岡	古代・中世	掘立柱建物	古錢
14	頭地下手遺跡	五木村頭地	绳文	溝・土坑	绳文土器・石器
15	下江中島遺跡	富合町古閉	古墳・古代	掘立柱建物・溝・土坑	二彩・绿釉・土師器・須恵器
16	中原横穴群	人吉市中神町	古墳・近代	横穴墓・防空壕	土師器・須恵器・鉄器
17	菊池氏館跡	菊池市隈府	中世	掘立柱建物・堀	土師器・陶磁器
18	桑鶴遺跡群	熊本市貢町	绳文	集石・溝・土坑	绳文土器
19	両迫間日渡遺跡	玉名市玉名	弥生・中世	水田・鞋印・竪穴住居	土師器・須恵器・杭
20	中山錦川跡群	甲佐町中山	绳文・古代	溝・道路・土坑・竪穴住居	绳文土器・土師器・須恵器・石器
21	宮浦横手遺跡	芦北町宮浦	弥生・古墳	竪穴住居	弥生土器・土師器・铁器
22	二本木遺跡群	熊本市春日	中世・近世	溝	土師器・須恵器・瓦質土器・陶磁器
23	幅遺跡	南阿蘇村両併	绳文・弥生	竪穴住居・集石	绳文土器・弥生土器

国指定史跡・鞠智城跡を国営公園に

熊本県では、国書に記載された古代山城の鞠智城について、国営公園化を前提にしながら、長年にわたり発掘調査と、歴史公園の完成を目指して整備事業に取り組んできました。

この間、発掘調査では八角形鼓楼跡など我が国の古代山城として初の発見が相次ぎ、整備事業も 43.6ha を公有化して、鼓楼・米倉・兵舎・武器庫の復元を行いました。

こうして、鞠智城跡は、平成 16 年 2 月に国指定史跡になりました。県では、さらなる施設の充実のために、今春から本格的に国営公園化に向けた運動を始動しました。皆様のご理解とご協力をお願い致します。

お問い合わせ先：熊本県立装飾古墳館 Tel 0968-36-2151

熊本県立装飾古墳館分館

歴史公園鞠智城 溫故創世館 Tel 0968-48-3178



カモシカ調査について

カモシカは、国宝級の天然記念物とされる国の特別天然記念物に指定されており、九州では、熊本県・大分県・宮崎県の三県に約 2000 頭が生息していると推定されています。熊本県文化課では、平成 16・17 年度に生息数を調査するための小規模な調査を実施しました。

カモシカ調査は、5 名前後で一班を編成して一定面積の墳塚数を調査するものです。高い山の急斜面に一列に並んで、カモシカの糞の数や木で角をこすつた跡を探しますが、今回の調査では新しい糞は発見できませんでした。近年の調査で指摘されているとおり、九州地区的カモシカが激減していることを証明する結果になってしまいました。今後、カモシカの保護に特別の力を注ぐ必要があると言えます。

ただ、平成 17 年度には、調査中に本物のカモシカと遭遇するというめったにない機会に恵まれました（写真）。絶滅の可能性も指摘される中で、一つの救いとなつ出来事でした。



平成 17 年度調査で見つかったカモシカ

～お知らせ～ 「考古資料学習キット」の貸出について

熊本県文化課では、小中学校向け社会科・歴史学習の補助教材として「考古資料学習キット」を製作し、今年度から貸し出しを始めています。県内の遺跡で見つかった本物の土器や石器をコンパクトにまとめているので、地域の歴史を学習するのに最適です。また簡単な説明文もついていますので、専門家でなくても安心して説明できます。これまでに県内の小中学校 7 校に貸し出し、ご好評いただいている。

子供たちに、本物の出土遺物を手でふれ、原始古代の人々の知恵や工夫の跡を肌で感じさせてあげてください。

お問い合わせ、お申し込みは熊本県文化財資料室まで。



文化財が盛りだくさん！自分の手で触ってみよう！

発掘現場の一斉公開について

熊本県内では、現在、一年間に約 100 力所近い埋蔵文化財の発掘調査が実施されています。九州新幹線の建設事業に関連した発掘も多く、職員総動員で業務に当たっているところです。

ところで、多くの調査は新たな発見をもたらしてくれます。例えば、玉名市の発掘現場では弥生時代の水田が県内で初めて見つかり、当時の足跡や甃もはつきりとよみがえってきました。

文化課では、このような成果を、熊本の子ども達に、知つて欲しい・体験活動を通して感動して欲しい・そして郷土に誇りをもつて欲しいとの願いから、平成 17 年度から「体験発掘」などを取り入れた一斉現場公開を実施しています（写真は今年度の様子）。

参加者の感想に、「蒸し暑くてきつかった」「本物を見て嬉しかった」（小・中学生）、「夢中になっていた」「この体験を通して自分の夢をふくらませて欲しい」（保護者）という声がありました。今後も「夏休みの自由研究」のテーマとして利用できるよう、また、体験を通して「親と子のコミュニケーション」を深めていただけるようにと、内容の充実を図っていきます。

平成 19 年度も夏休みと秋に実施予定です。是非御参加ください。詳しくは文化課文化財調査係まで。



土器洗い体験（自分で掘った土器を洗います）



発掘体験（テレビ取材もあってちょっと緊張しました）



土器作り体験（後日焼いて参加者にプレゼントしました）



「学習キット」(→ 9 ページ) を利用した出土物の説明会



石器作り体験（1万年前の石器づくりに挑戦）

遺跡をまもるわざ ー菊池氏館跡土層転写作業についてー

工事に先立つて発掘調査された遺跡では、調査が終わるとその大半は壊されてしまいます。土器や石器等は持ち帰ることができますが、地面に残された遺構は持ち運びが困難でなかなか残すことができません。

そこで貴重な遺構を少しでも残すために、遺構の一部を取り上げて保存する技術があります。ここでは、菊池氏館跡の発掘調査で見つかった堀跡の剥ぎ取り作業について紹介します。

作業は、平成 18 年 11 月 16 日から 3 日間行われました。堀跡は、大小の円礫を含む地山を掘って築かれ、さらに堀内にも多くの円礫が流れ込んでおり、剥ぎ取り作業は困難が予想されました。

3 日間の作業の流れは以下のとおりです。

【1日目 ー塗布ー】

まず剥ぎ取り面を清掃後、予め希釈したポリウレタン樹脂（商品名：トマック ND-10）を電動塗装機で塗布しました（写真 1）。その際、堀跡及び地山の円礫で、接着するには重すぎるものについては、事前にシリコン樹脂を塗布しておき、剥がれ易くする処理を施しました。

なお、同様の作業を 3 回ほど繰り返しました。



写真 1



写真 2

【2日目 ー裏打ー】

硬化した土層断面全体に寒冷紗を縦横二重に貼り付け、さらにポリウレタン樹脂を吹き付け、固まるまで一昼夜放置しました（写真 2）。

【3日目 ー剥取ー】

早朝より剥ぎ取りを開始しました。土層断面は幅約 4 m、高さ 3 m と大きく、搬送・保管等を考慮し、縦に二分割して剥ぎ取りました（写真 3）。



写真 3

こうして剥ぎ取られた堀跡は、きれいに加工されて菊池高校内に展示される予定です。展示されたら、臨場感溢れる堀跡を一度ご覧になっていかがでしょうか。

文化財資料室の公開・普及活動について



夏休み古代体験教室の様子

文化財資料室では、文化財の保護・普及を目的に、さまざまな活動を行っています。この施設は、熊本県文化課が行う埋蔵文化財発掘調査による出土遺物の整理・収蔵施設として設置されたものです。膨大な量の出土遺物等の資料を活用するため、企画展を初めとする展示活動や、原始・古代をテーマにした体験学習会の開催、さらに中学生を対象にしたナイストライ（職場体験学習）事業の受け入れなどにも積極的に取り組んでいます。

以下、平成 18 年度に実施した主な事業を紹介します。

1 企画展

新発見考古速報展 赤い祈り～阿蘇郡小国町地蔵原遺跡出土の祭祀土器～

開催期間：平成 18 年 8 月 1 日～平成 18 年 9 月 30 日

2 体験学習会

「夏休み古代体験教室」平成 18 年 7 月 21 日～8 月 31 日

「文化財ふれあいデー 1 日古代体験教室」平成 18 年 11 月 11 日

3 ナイストライ（中学生職場体験）事業

平成 18 年度参加校

- 1 熊本市立楠中学校 (H18.7.11～7.14)
- 2 合志市立合志中学校 (H18.9.11～9.12)
- 3 熊本市立帯山中学校 (H18.9.12～9.14)
- 4 熊本市立桜木中学校 (H18.9.13～9.15)
- 5 熊本市立湖東中学校 (H18.9.19～9.22)
- 6 菊陽町立武藏ヶ丘中学校 (H18.10.4～10.11)
- 7 熊本大学教育学部附属中学校 (H19.1.31～2.2)
- 8 熊本市立武蔵中学校 (H19.2.6～2.8)



ナイストライの 1 コマ（注記作業）



1 日古代体験教室の様子



ナイストライの 1 コマ（拓本作業）

文化課ホームページ「くまもとの文化」

<http://www.pref.kumamoto.jp/education/hinokuni/index.html>

文化財通信くまもと 第 24 号 平成 19 年 3 月 31 日

発行：熊本県教育委員会文化課 TEL 096(333)2704
編集：熊本県文化財資料室 TEL 096(363)8881
FAX 096(363)8314

印刷：株式会社 大和印刷所

18 教委 文文
④ 010

交通機関のご案内

